

個人のライフコースと家業の継承

——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（3）——

大阪経済大学 苫米地 なつ帆

1 目的

この報告の目的は、現代の日本社会において家業がどのように、どのような個人によって継承されるかの一端を明らかにすることにある。親が家業を営んでいる場合には、子どものライフコース上にその家業を継ぐかどうかを選択する機会が生じる。ただし、そもそも継ごうと思うかや、どのタイミングで継ぐかなどは、個人属性や家業の内容、ライフコース展望によって異なると考えられる。それだけでなく、親の年齢や家族のライフステージといった、時とともに変化しうる要因が影響することも予想される。だが、その関連メカニズムについては明らかにされていない点が多いのが現状である。

2 方法

そこで、東大社研パネル調査（JLPS）データに含まれている家業継承にかんする変数を用いて、家業の継承や継承希望とその変化についての記述分析・パネルデータ分析をおこなう。具体的には、入職経路を示す変数のうち「家業を継いだ（家業に入った）」を選択しているかや、入職理由として「家業を継ぐため」を選んでいるか、10年後の働き方希望について「親の家業を継いでいたい」と回答しているかどうかに着目し、それらと個人属性や世帯状況のかかわりについて検討する。

3 結果

分析の結果、初職入職時から家業を継続している人、現職で家業に入職した人いずれについても、女性よりも男性の比率が高いことが示された。また、全体のケース数は少ないものの、男性かつ長男にあたる個人が家業を継いでいる比率が高かった。家業の継承希望についても、男性のほうが継承を希望しやすかった。さらに、学歴が高いほうが家業の継承を希望しにくいことも明らかになった。より詳細な結果については、当日口頭および配布資料にて報告する。

4 結論

以上から、家業の継承を希望するのも実際に家業を継ぐのも、相対的に男性が多いことを指摘できる。さらに、実際に家業を継承した人のなかでは長男の比率が高く、子どもが複数いる家族では、長男が家業を継承する役割を担いやすいのではないかと考えられる。ただし、高学歴であることや家族のライフステージなどの影響もみられ、現代日本においては、必ずしも家業にとらわれないライフコース選択がなされているといえる。

【謝辞】

本研究は、日本学術振興会（JSPS）科学研究費補助金・特別推進研究（25000001, 18H05204）、基盤研究（S）（18103003, 22223005）の助成を受けたものである。東京大学社会科学研究所（東大社研）パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金、株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けた。パネル調査データの使用にあたっては東大社研パネル運営委員会の許可を受けた。また二次分析にあたり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから「東大社研・若年パネル調査（JLPS-Y） wave1-8, 2007-2013／東大社研・壮年パネル調査（JLPS-M） wave1-8, 2007-2013」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）の個票データの提供を受けた。ここに記して感謝申し上げる。